

21世紀の先物市場へ



北辰商品社長 伊藤 博幸

21世紀はエコロジーの世紀、人類と自然の調和・共存が大きなテーマになりそうだ。8月26日には10年ぶりに南アで環境・開発サミットが開催された。わが国でも97年12月の京都議定書に沿って、地球温暖化防止のために温室効果ガス排出量削減の取組みが強化されている。

日本の商品先物業界の今後を展望した場合にも環境というテーマが大変重要になってくるだろう。欧米では天候や排出権、電力などが先物市場に上場され活発に取引されている。東工取



大起産社社長 加藤 正治

では温室効果ガス排出量の先物取引について3年前から研究を重ねているが、既に大手損保が店頭取引での天候デリバティブ業務を開始し、電力とガス会社が相互で気温変動による収益リスクを補完する契約が実施されたりしている。自然環境の及ぼす不確実性の除去、自然との共生という時代の要請は高まりこそすれ止むことは無い。

最近、松井証券の金取引開始が話題を呼んだ。商品先物市場の責務は重い。そうした中、天候・電力・排出権先物市場の構想に夢を膨らませる。10年後、PCの気象画面と南の小島の水没する風景を見ながら、カイを叩いているのだろうか。

大航海時代

たコロンブス、小船団によりインド航路を開拓したヴァスコ・ダ・ガマ、そして世界周航を成功させたマゼランは歴史にその名を刻むことが出来た。

15世紀から16世紀にかけて、冒険者たちの熱気に満ちた大航海時代がありました。その発端となったのは、マルコ・ポーロの紹介文に「東洋に黄金の国(ジバング)がある」という一行があった事により当時のヨーロッパ人の「夢」「憧れ」や「欲望」を刺激し、爆発的なエネルギーの引き金になったとも言われています。

多くの冒険者達が木造船を操り、海図もなく大海原に挑みましたが、その多くは夢と消えしました。そんな中で大西洋を渡ることを志し

思い込み



東陽レックス社長 青木 暁

食事は残さず、きれいに頂くのが一番。一かんずつのお任せで握ってもらい、おいしかったものをも一度頼む。こんな食事の出来る店を自宅の近所に持っている。

足繁く通って七年にもなると、好き放題言える仲間が二十人程できた。先日も一類り四方山話で、仲間の雑誌社カメラマンが、にやつきながら「青木さんこんな頭の体操はどうだ」と言う。

ナフキンで三枚のカードを作り、カードに「2」「1」「6」と書き並べた。この

鎧橋随想



三晃商事社長 石田 敏一

カードを置きかえて、43で割り切れる3桁の数を作れと言う。人の悩むのを見るのは快感である。こちらは意地になり「うーむ」さんさんじらされてから正解「1」「2」「9」。私は「君はカードを上下に換えても良い」とは言わなかったじゃないかと叫んでしまった。言われてみると「なーんだ」のだけけれど、一人でじつと考え込んでみると、その「なーんだ」が見えてこない。勝手に思い込んで選択肢を狭めた私が悪いのだ。

前提条件、仮定条件、制約条件。自分で勝手に作り上げて自縄自縛に陥ってしまう。商取業界も改革に問題山積であるが、思い込みを戒め、発想柔軟に対応したいものです。

私のスポーツ人生

今でこそ体を動かすことが少なくなりましたが、こんな私でも学生時代は勉強嫌いでスポーツ一筋の青年でした。そんな時に出会ったのが、あの熱血青春ドラマ「スクール・ウォーズ」のモデルとなったことで知られる山口良治氏でした。

当時ラグビー部に所属していた私は、講師として指導頂いた山口氏に多大な影響を受けました。この素晴らしい指導者は後輩の私達に対してどんなことでも体当たりで、まるで自分のことのように相談ののってくれました。熱いハートを

拜見・オリジナル銀製洋杖

金工最高の栄誉に輝く

元東京工業品取引所常務理事 岡 達夫

通産省―三井物産―志村シャフト、石突き等の形と重量などのバランスが大いに影響する。銀柄の場合、いかに軽量に作るかが、ポイントになります。鍛造は電気炉や鋳造機を用意して自分でやっています。

現在は横浜市神奈川区に住む岡さんの「地下工房」は、10畳余りのスペースに道具や材料、半製品がところ狭しと積み重ねられている。一本の製作に4―6カ月かかる。作品はすべて一点物、市販はしないで、家に並べ



オリジナル作品の数々



地下工房で制作にいそむ岡さん

て楽しんでいる。ただ、知り合いのステッキ屋さんを通じて奈良薬師寺管長の手に渡った作品もあるとか。岡さんが感激に身の引き締まる思いをしたのは、昨年5月のこと。「第31回伝統工芸日本金工展」に初出品したゴリラの顔をデザインした「銀柄洋杖」が入選した時だ。腕自慢の金工だれもが目標にするこの展覧会での入選は岡さんの製作意欲を一層かきたてた。

高齢化社会の到来で杖の出番は多い。実用杖だけでなく、しゃれたデザインの杖が街角で軽やかな音を響かせる日を夢に見ながら、岡さんは今日も製作にいそんでいる。

『タイムスリップin浪華』

島実蔵氏、近く刊行

「大阪堂島米会所物語」「大阪でこわす」に続いて、「島実蔵氏(II写真)」の第3作「タイムスリップin浪華」が近く刊行される。

タイコム証券を退社したあと、創作活動に意欲を燃やす島氏の近刊は「小説・先物啓蒙シリーズ」の第一弾と銘打って奈良の飛鳥書房から発行される。定価は1200円。「1時聞くらいで読める小説」で、小説を

証言・戦後先物史 大震災と神戸ゴム(1)

大阪商品取引所常務理事 井端博人

井端 当時、神戸ゴム取は神戸市中央区播磨町の神戸取引所ビルの4階に入っていました。かつて、神戸生糸取引所や神戸証券取引所もいたビルで、しっかりと構築された。

ビルは外観を保っていました。でも、ビルに入ると1、2階部分の損壊がひどく、3階以上にあがれませぬ。倒壊する恐れがあるからビルに近づくな、と警告されるような状態でした。

―取引所の人達はどうしました。

井端 余震が続き、まだ危険な中を大平威理理事長以下は当時の役員による、林慶一郎常務理事、金谷徹雄総務部長の3人がかけつけ、ビルの被害状況を確認しました。午前7時50分ごろでした。当時の通産省商務室へ電話で第一報を入れたのが午前11時です。被災ぶりを説明し、臨時立会停止にすることを伝えました。職員の安否確認を始めたのはその後です。

―神戸ゴム取は2月10日に、わが国初の商品指数のゴム指数を上場することになっていました。

井端 被災した1月17日は、東京に向いて商品先物会社の実務担当者取引要綱を説明協力をお願いする日でした。ホテルの説明会場への連絡が思うにまかせず、集まっていたいた方々に迷惑をおかけしました。

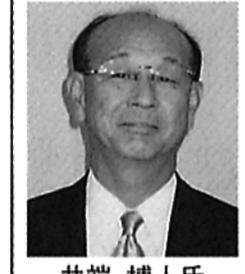
神戸ゴム取としては、取引組が13万枚を超えたシート3号を土壌に、ゴム指数を育て、大きな花を咲かせる計画でした。その矢先の被災で、取引所職員は明日を閉ざされたような気持ちになりました。(つづく)

巨大地震が取引所直撃

阪神大震災 1995年1月17日、午前5時46分、兵庫県南部を震源としたマグニチュード7.2の直下型巨大地震が発生。淡路島北部と神戸、芦屋、西宮市一帯が被災した。神戸に向かうJR、私鉄の鉄道各線と幹線道路が寸断され、死者およそ6,000人、倒壊家屋およそ20万棟という深いツメ跡を残した。

―阪神大震災当時、大阪商品取引所の井端博人常務理事は、神戸ゴム取引所(1997年10月、大阪繊維取引所と合併し、大阪商品取引所)の理事でした。被災時の気持ちから、井端 大きな地震だということはずいぶんわかりました。しかし、ショックが大きすぎました。これからどうなるのだろうか、という不安で頭がいっぱいになりました。すぐには、ほかのことは思いつきませんでした。

―神戸ゴム取の被害に



井端 博人氏